ＭＪ進路通信：「進路指導室から、未来へ」

～ようこそ、アップデートされた４年目の案内所へ～

前橋女子高校進路指導部

令和８年度　第 34 号

令和８年 10 月20 日（火）発行

■スペシャリストガイダンス実施

２学年の進路行事「スペシャリストガイダンス」が16 日に行われました。各分野の専門家である大学の先生１１名を講師としてお招きし、大学での学びを見据えた、最先端の話題を講義していただきました。

生徒は１１講座（右表の講義が開講されました）のなかから興味関心に応じ２つの講座を選択し受講することになります。最近は web 上で気軽に大学の講義を見られる便利な時代になりましたが、やはり直接の対面で感じる熱量や面白さは動画では味わえないもののようです。各教室では講義後も活発な質問が行われ、好奇心に火が点いた生徒もたくさんいたことと思います。この講座をきっかけにして大学や学問分野に興味をもった生徒も多く、将来の進路選択に大きな影響を与える企画であったと思います。

各会場で行われた講義の様子を一部紹介します。

系統	大学	タイトル	講義概要
１文学	大阪大学	超短編を精読する―坂口安吾／三島由紀夫	文学部とは何を学ぶ学部なのか？ 大学の文学研究では、どのように分析するのか？ 文豪のごく短い小説２編を学術的なアプローチで読み直します。
２心理学	早稲田大学	読み書きの心理学：自分の得意な学習方法を見つけよう	普段何気なく行っている「読み書き」の認知プロセスを紐解き、学習者の特性に合わせた効果的な勉強法について考える講義です。
３法学	金沢大学	家族と法	家族に関わる具体的な法的問題、たとえば、離婚、夫婦別姓、代理懐胎（代理母）、相続等の問題を通して、法を学ぶということの意味についてお話します。
４国際関係学	東京外国語大学	言語と文化の心理学	身近に潜む「文化」と、人と人をつなぐ「越境」の力について、心理学実験も交えながら言語と文化の関係から分かりやすく紹介する授業です。
５経済学	新潟大学	経済科学部で学ぶということ	大学で学ぶ意義、高校との違い、新潟大学全体の特色について
６工学	東北大学	都市の未来のための熱・風・みどりのデザイン	「熱・風・みどり」の視点から都市環境を読み解き、気候変動に適応した安全で快適な未来の都市空間をデザインする方法を考える講義です。
７農学	東京大学	紛争下の食料安全保障ーミャンマー危機とFAOの現場経験	元ミャンマーFAO代表の経験をもとに、長期紛争下における食料安全保障の課題と国際機関の対応について考察する講演です。
８医学	新潟大学	医学でたどる生命の奇跡(軌跡)	自身の研究内容にも触れながら、受精から出生までの過程を医学的にたどり、妊娠という生命現象の不思議と周産期医療の役割を解説します。
９看護	群馬大学	学問としての看護、職業としての看護	超高齢社会において、保健・医療・福祉の中核を担う看護の重要性は増しています。学術的基盤を持つ「学問としての看護」と、社会的責任を伴う「職業としての看護」について解説します。
１０薬学	金沢大学	薬の動きと働き	薬物動態の個人差に着目し、代謝酵素やトランスポーターの変動要因やメカニズムを解明することで、すべての患者に最適な個別化薬物治療の実現を目指します。
１１理学	埼玉大学	つながると面白い高分子～材料から生物まで～	材料や生物に多様な特徴をもたらす「高分子」のつながり方を体験しながら考察し、細胞を動かす高分子に焦点を当てた研究を紹介します。

７農学（紛争下での食料安全保障：東京大学）







↑１文学（超短編を精読する：大阪大学）

←６工学（都市の未来のための熱・風・みどりのデザイン：東北大学）

例年、前女生の講義に対する真剣な眼差しに、大学の先生も大変喜んで「来年もまた来たい」と言ってくれる方もいらっしゃいます。文学担当の齋藤先生（大阪大学）は、かれこれ１０年近く、毎年のように前女に足を運んでくれます。ありがたいことですね。

■東北大（工学部）OG 懇談会

スペシャリストガイダンスで講義をしていただいた、東北大工学部の先生に同伴して、本校 OG の東北大生２名（大学院１年Ｍさん、工学部４年Ｎさん）が来校し、放課後の時間に東北大学工学部の紹介をしてくれました。前女生にも人気の高い東北大に通う先輩の話に、多くの在校生が耳を傾けていました。



■１１月の記述模試は、すごく大事！

もうすぐ１１月。最初の連休には各学年とも校外模試が予定されています。秋の模試は１学期の反省を踏まえた軌道修正ができたかを確認するという大切な目的があり、その修正の度合いによって７月模試から大きく成績が変動する、といわれます。来年度に向けての意識をしていく時期でもありますので、今回の模試をそのための起爆剤として活用したい。目標点と志望校を設定し、１学期にどんな課題を抱えていたか（そしてその課題は克服できているか）を振り返ってみましょう。

１年生

１年の７月から１１月は成績が大きく変動する時期。主に中学の内容が中心だった７月模試と比べ、高校に入学後の学習の成果が問われるのが今回の模試です。１１月に成績を伸ばした生徒はそのまま受験まで高水準で推移しているというデータもあります。早めに受験を意識して日頃の学習に活かしている人は当然受験での成功率は上がります。今のうちからしっかり模試に向き合う学習スタイルを確立しておきましょう。

２年生

今回の模試からいよいよ５教科型の受験になります。「英数国もままならないのに理社（情）なんて」と不安に感じる人も多いと思いますが、基本的なスタンスは変わりません。まず英数国の柱をしっかり強くする、という目標は変えずに、そこからちょっとずつ理社のウエイトを上げていけばよいのです。今まで以上に学習バランスの工夫が求められますが最初はうまくいかなくてもいいのです。これから自分はどの教科（分野）に力を注ぐべきなのかよく考える機会にしましょう。修学旅行が迫り学習に対するモチベーション維持が難しい時期ですが、例年修学旅行を境にビシッと切り替えられるのが前女生です。修学旅行後はもう「３年０学期の始まり」と腹をくくって学習に取り組めるようにしたいですね。

３年生

記述型模試が終了し、残すはマーク模試のみ。これから本番までの間、自分の客観的な実力を測るものさしがなくなるというのは不安もあるとは思います。だからこそ大事なのは**「この時期こそ抜け駆けのチャンス、逆転の大チャンスである」**ということ。今後は周囲と自分を比較することなく自分の学習に専念できるわけですから、正々堂々と**「抜け駆け大作戦」**を実行しよう。

とはいえ、気持ちも不安定になりがちな時期です。努力しても成果が現れない焦りから、つい弱気になったり投げやりな気持ちになったりしていませんか（まさか家族に八つ当たりなんてしてないですよね）。不安や焦りは皆一緒。こんな時こそ人に優しく接して徳を積みましょう。生活リズムを整え Ca や VitaminC をたっぷり摂取して心穏やかに過ごしましょう。



１１月の重みを十分理解して、決意を新たにしませんか。「受験が終わるまで〇〇〇（例：SNS）は封印」など我慢事を決めて、強い決意で今月を過ごしましょう。